会　　議　　録

会議の名称	令和５年度　第３回和泉市総合教育会議
開催日時	令和５年１１月１６日（木）午後3時３０分から午後5時３０分まで
開催場所	市役所３階　３Ａ・３Ｂ会議室
出席者	［構成員］辻市長、小川教育長、深堀教育長職務代理者、酉家教育委員、久米教育委員 中西教育委員、小谷教育委員、 ［事務局］（教育委員会） 土本教育次長兼教育・こども部長、辻生涯学習部長、上田教育指導監、阪下学校教育室長、仲谷教育指導担当課長、岩井教育総務課参事、鍛冶教育・子ども部次長兼教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、小路教育総務課企画係長、西川教育総務課主事 （市長部局） 山本市長公室次長兼子育て支援室長、東政策企画室長、鍛冶こども政策担当課長、藤井企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査
会議の議題	(1)教育と福祉の連携について
会議の要旨	・第２回会議の振り返りをおこなった。 ・データ連携事業について、意見交換を行った。 ・令和６年度実施する新たな取組み（案）について、意見交換を行った。
会議録の作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の確認方法	□会議の議長の確認を得ている ■出席した委員全員の確認を得ている □その他（　　）
その他の必要事項	

審　議　内　容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

１.辻市長から、開会の挨拶

２.事務局（市長部局）から第２回の会議の振り返りについて説明

３.事務局（市長部局）から「データ連携事業について」説明

４.意見交換

【辻市長】
〇市長部局が持っている情報と学校がもっている情報を集約し、ETL ツールやデータ分析基盤を利用して支援が必要な対象者を抽出していくとのことだが、現在の情報集約状況と、集約した情報をどの程度活用できるようになるか、今後の見込みは。
〇教育の情報連携が課題とのことだが、今後の見通しは。
〇個人情報の取り扱いも整理が必要かと思うが、必要な措置はあるか。

【事務局（市長部局）】
〇現状としては、7ページ左下に記載の基幹系システムの情報集約は完了しており、分析をしているところ。
〇今後の見込みとして、データ連携をすることで、制度を利用できるにもかかわらず何らかの理由で利用していない人に対して LINE 等を通じた申請勧奨と、データ分析をすることで虐待リスクの高い子どもを探し出して支援につなげることができるようになる。
〇虐待リスクの分析については、今後進めていく予定であり、優位な結果が得られれば本格運用していきたい。
〇校務システムで保有している情報については、学級ごとや学校ごとにデータが管理されていることから、データの取り出しとデータを組み合わせることが課題となっており、解決に向けて教育委員会と協議を行っている。
〇個人情報の取り扱いについては、行政目的をもって収集した情報は、目的のためのみに使われることになっているが、相当な理由がある場合は市が目的外で使用することも一定認められており、人の目では見過ごされがちな支援が必要な児童の個人情報の活用は、重要性・合理性・広域性という点で、目的外利用に妥当性があると考えているが、法的には妥当でも、市民の理解を得ることは大切なので、本格的に運用する際は、ガイドラインを作成して公表するなどの取組も必要かと考えている。

【深堀職務代理者】
〇虐待の具体的な証拠がない家庭に対してもアプローチしないといけなくなるため、学校での再アセスメントが重要になってくると思うが、検討しているか。
〇デリケートな問題なので慎重にすすめていただきたい。

【事務局（市長部局）】
〇学校現場で実施しているスクリーニングの結果と、今回のデータ連携で抽出した情報を突合して、学校での対応を再検討してもらいたいと考えている。
〇学校として把握していない児童については、先生に経過を見てもらう期間を作って、課題がないか検討いただくことを考えている。

【久米教育委員】
〇LINE プッシュ通知について具体的にどういうシステムを検討しているか教えてほしい。
〇チャイルドラインのカードを見て電話相談してきた子どもたちの声をシステムに取り込んで活用してみてはどうか。

【事務局（市長部局）】
〇LINE プッシュ通知は、本来申請すれば受けれることができる行政サービスについて、申請されていない方を対象に、サービスを受けることができることを個別に通知するもので、通知希望者は LINE で事前に登録いただき、その際に税情報等を使用することについて承諾をいただいたうえで、対象者の抽出を行う。
チャイルドラインは匿名で相談を受けており、児童を特定してデータ連携することはむつかしいが、連携していく方法がないか検討していきたい。

【中西教育委員】
〇学校での出欠のデータと子どもの生活や家庭の背景をつなげるというデータ連携事業の趣旨は素晴らしい。
〇1 回目の会議で示された不登校の 6 つのレベルに応じた取組についてどこまでできていて、どこまでできていないのか、レベルに応じたデータを示していただきたい。

【事務局（市長部局）】
〇現時点で詳しく示すことはできないが、データから正確で優位な答えを得るためには、データ自体の量や質が重要で、行政がもっている情報と、学校が持っている保健や成績、出欠の情報や、学校のスクリーニングから得られた情報を組み合わせて取り組まなければならないと考えているので、教育員会と協議しながら進めていきたい。

【事務局（教育委員会）】
〇不登校の６つのレベルに応じたチャートは今年度当初に各学校へ市の案として配布し、それぞれの学校の状況に応じて作成している。今後、データ連携事業の取組も踏まえて、毎年度ブラッシュアップし、良いチャートにしていきたい。

【中西教育委員】
〇6 つのレベルに応じたチャートでは、子どもたちの状況を数字で整理できているのか。

【事務局（教育委員会）】
〇数字の整理については、月ごとに不登校の報告を学校からもらっており、１か月で３日以上の欠席があった児童については１年間継続して把握するようにしている。

【小谷教育委員】
〇素晴らしいチャレンジングな事業だと思う。
〇気になる児童を抽出するのは、何らかの AI ではないかと思うが、どのようなロジックで出そうとしているか、今の考えを教えてほしい。

【事務局（市長部局）】
〇手法としては、現在、コンサルティング業者で調整しており、既に虐待を受けている人のデータと似た傾向のある人を探すといった、決定分析という分析手法を用いる予定。

【小谷教育委員】
〇既に虐待を受けている人もいろんな傾向があるので、その傾向のあるデータ分析等も増やしていくことができればいいのでは。
〇かなりチャレンジな取組で、慎重に取り組む部分もあるかと思うが、何かモデルを決めて進めるなど、やり方や進め方は話しているのか。心配懸念点を潰しながら進めていくのがいいと思う。

【事務局（市長部局）】
〇今年度は、SSW が在中している学校で試験的に実施し、来年度以降、1 から 2 校程度モデル校を選定し、本格的に取り組む予定。良い結果が得られれば、数年後には全体に広げていくことができればと考えている。

【小川教育長】
〇データ連携によってピックアップした児童を、改めてアセスメントすることが一番のポイントであり、このアセスメントは、AI とかではなく、人がスクリーニングしていくことが前提であることを押さえておく必要がる。
〇データ連携事業においては、虐待と不登校が平行して取り上げられているが、虐待は犯罪で、不登校は問題行動ではなく誰でも起こりうるという違いがあることについて、改めて共有しておきたい。
〇データ連携システムは教師の経験と勘と熱量のみに頼っていたところを改善しようという取組である。
〇虐待や不登校の重篤化を防ぐためには、教師や市役所の職員の経験と勘と熱量は必要で、データ連携システムに置き換わるものではなく、これらを合わせたハイブリットな取組が必要だと思う。
〇教育系システムをいかに充実させるかということが課題であり、心の中まで見えるものではないので、データの量と質はしっかり精査する必要がある。
〇箕面市の事例を視察させていただいたときに、あくまで参考情報として扱っているという話もあったので、情報を信用しすぎて本末転倒にならないように扱っていかないといけない。

【事務局（教育委員会）】
〇本日校長会があり、各校長先生には、教育は子ども理解に始まり、子ども理解に終わるというぐらい子どものことをしっかり見ていただきたいということと、それを補完する事業として、データ連携の実証実験を現在行っていることを伝えている。
〇昨年夏に箕面市の先行事例を視察させてもらい、データ連携によって新しい角度からケース会議を行ったり、再アセスメントができるようになることを教えてもらったので、このチャンスを生かしていきたいと考えている。

【小川教育長】
〇集約したデータから情報を読み取るスキルが必要で、そこには、教師の経験と勘と熱量と子どもを思う心が一番基本になるので、そこを誤らないでいただきたい。

【小谷教育委員】
〇今回の DX 導入による大きな目的はデータ連携の実証実験だが、それに加えて、疲弊した職員の DX を活用した働き方改革も目的にしてはどうか。先ほど話があった教師の経験と勘と熱量も重要だと思うが、教員が疲弊しすぎて見過ごすことがないよう、教員のサポートになるような使い方ができればいいと思う。
〇様々なデータ連携ができいるように、DX 社会に向けたデジタルの共有化のような予算は計上されているのか。

【事務局（市長部局）】
〇データ連携の実証試験はこども家庭庁が実施していることから、共有化の課題については、こども家庭庁に伝えるとともに、国で学校経営システムの標準化をお願いしており、全国的な課題として取り組む必要があると考えている。

【辻市長】
〇自治体システムの標準化は令和７年度末までとなっているが、学校経営システムも令和７年度末までには標準化できるのか。

【事務局（市長部局）】
〇現在、国が進めているシステムの標準化の対象業務に学校経営システムは含まれていないので、別でシステム標準化が必要になってくる。

【辻市長】
〇令和６年度は特に最重要課題として取り組みますので、積極的に国の方にも要望しており、国が動かなかったら市で先行して和泉発日本の事業として取り組んでいきたい。

【西家教育委員】
〇医療においても同じように、電子カルテのデータ連携について課題があり、利用者がメリットを感じるためには、長年使えるような、柔軟なシステムを導入していかないといけないと感じている。また、患者の感情や医療者の勘や経験は教育も同じだと思うので、マンパワーを維持することと、DX の導入により支援の質が向上していくことを期待している。

５.事務局（教育委員会事務局）から「令和６年度実施する新たな取組み（案）」説明

【深堀職務代理者】
〇外部のスクールロイヤー（以下、「SL」という）にスポット的に相談をするのではなく、和泉市のことを理解した SL が活動することで、ケース会議へ参加して一緒に解決策を考えたり、教職員への研修といった一歩踏み込んだ取組ができるのではないか。
〇非常勤という単位であっても、市町村単位で SL を配置していることは少なく、先進的な取組であり、先生方の働き方改革にもつながるものなので、この取組がうまくいけば発展していってほしい。

【西家教育委員】
〇これまで職員が行ってきたことを新しく配置された社会福祉士がスキルをもって担っていくことができるか、しっかり見守っていく必要がある。

【事務局（教育委員会）】
〇新しい社会福祉士の配置当初は、CSSW が同行してスーパーバイズしながら育てていくことを考えている。

【久米教育委員】
〇地域や保護者から信頼を受けている CSSW から指導を受けながら育てていくことに心強さを感じる。
〇マンパワーを十分に生かして、この仕組みがうまくいくようにしてほしい。

【中西教育委員】
〇不登校には学力問題の影響もあるので、マンパワーとデータ連携だけでは対応が厳しい部分もあるのではないか。誰一人取りこぼさない教育も行っていく必要がある。
〇社会福祉士を常勤化することで、社会福祉士と教員がケースワークを行い、力を合わせて取り組んでいってほしい。
〇SL が月一回配置というのは取組の第一歩でしかなく、これを更に発展させていってほしい。また、与えられた仕事を配置された SL のみに任せるのではなく、事案によって助けてもらう人材を変えるなど、それぞれが持ち味を生かせるよう、いろんな人を組み合わせながら対応していただきたい。

【事務局（教育委員会）】
〇社会福祉士と SSW それぞれの得意分野があるので、双方が助言しながら相乗効果でいい取り組みにしていきたい。
〇SL については、相談業務だけだと事案への対応のみになってしまうことから、月一回でも市役所に席を置くことで所属感をもってもらい、ケース会議への参加や、教員への研修や子どもへのいじめに関する授業など、予防的な視点でも活用していきたい。

【小谷教育委員】
〇虐待は年間 100 人ぐらい発生しているが、SSW が対応しようとすると、１人あたり４時間ほどしか確保できない計算になる。新しい体制と予算は合っているのか。

【事務局（教育委員会）】
〇目指すべきところは、専門家の常駐だと思っているが、一足飛びに配置することは困難なため、段階的に配置時間等を増やしているところ。
〇記載している時間で十分とは言えないが、チームとして対応していきたいと考えている。

【小川教育長】
〇都道府県で配置されている SL が都道府県の業務に加えて市町村の全てのニーズに答えることは難しいので、地域に応じて対応できる人材の配置をお願いしたい。
〇社会福祉士や SSW の住み分けをはっきりさせるべきという考えもあるが、あまりはっきりさせすぎると、住み分けが困難な場合に上手く回らないこともあるので、緩やかに取り組んだ方がいい。

【辻市長】
〇市長部局も常勤の弁護士を３年前から配置しており、専門職の助言をもらいながら業務を進めていくことができるので、心強く感じている。

６.辻市長から、閉会の挨拶

７.閉会

【事務局】
〇以上をもって、令和５年度第３回和泉市総合教育会議を終了する。

＜　終了　＞